

民のかまどへ伝承～

今からおよそ千六百年前のお話。仁徳天皇の“民のかまど”という伝承があります。ある時、都を眺め渡した仁徳天皇はご飯じきなのに、家のかまどから火煙が立ち上がってこないのもご覧になり、

民の生活が困窮しているのではないかと胸を痛められました。そこで天皇は、三年間、税を免除することを決めました。三年後、再び都を眺めると、今度は家のかまどから火煙が立ち上がっていました。

仁徳天皇は幸せうに微笑み「私は豊かになった」とおっしゃったと云います。その際のご自分のおるい物は古び、宮殿の屋根や壁の一部が朽ちていたと云います。

続く

— 古事記が教えてくれる
天命通求型の生き方 —

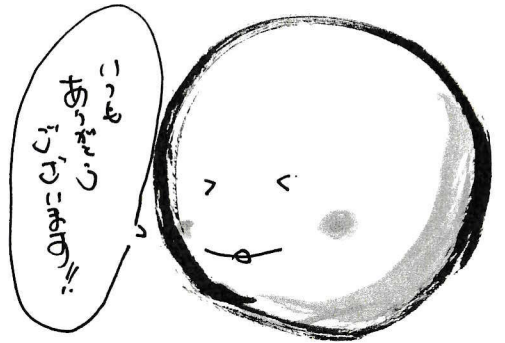


よちゃん
だより

2019.9月号
VOL.121

【株】ISO

余助康弘 090-1638-5351



△ 時は変わり、昭和天皇のお話

昭和二十年、日本は敗戦し、占領軍が日本に進駐してきました。その時、昭和天皇は、マッカーサー元帥中に面会し、「私はどうもよい国民が助かれぬ。それから国民の餓死を救うためにアメリカからの食糧援助をお願ひしたい。皇室の財産をその費用にあててください」と申し出されました。マッカーサーは、この昭和天皇のお言葉に感動し「数千年の歴史において、いまだかつて国民をかばって生命を捨てるといふ君主のあることを聞いたことがない」と彼の自叙伝に記されています。

ちなみにこの時マッカーサーは昭和天皇が命じりに降臣と思っていたそうです。また、昭和天皇は、この面会内容については男の約束ということばで「言はずにはなれません」とした。

— 「道徳の教科書」より —
この素晴らしい国に生まれてきたことに感謝ですね
日本人で良かった。😊